

平成30年度第6回まちづくり懇談会

「船橋市障害福祉団体連絡協議会」

1. 日 時：平成30年10月26日（金） 午後3時～
  2. 場 所：市役所9階 第2応接室
  3. 次 第
    - (1) 出席者自己紹介
    - (2) 市長挨拶
    - (3) 団体紹介
    - (4) 懇談
    - (5) 集合写真
  4. テーマ：障害があってもなくても安心して暮らせる街づくりのために
- 【議題】
- ①新しく建つ建物のバリアフリーについて
  - ②障害者スポーツについて
  - ③災害時用の黄色いバンダナの普及について
  - ④手話の普及について

---

○団体

今日はよろしく願いいたします。

それでは4つ提案させていただきます。

まず1つめですが、公共性のある建物が新しく建つ時には、障害者団体の話を聞いてもらえる場を設けていただけたらと思っております。

昨年、船橋市運動公園プールがリニューアルオープンしました。娘もよく利用させていただいていますが、障害者、特に身体障害の方には段差等の問題があり、プールサイドに車椅子のまま入れないといった面で若干改善の余地があると感じます。障害者にとって使いやすいものは、健常者にとっても使いやすいと思います。

障害福祉団体は、毎年のように市長との懇談を設けていただいております。前会長の時から、福祉ビルや障害者のための建物の建設をお願いしていますが、

障害者専用の施設を建てることは利用率を考えると難しいと思っていますので、既存の建物を建て替える時にも意見を伝える場を設けていただけたらと思います。

#### ○市長

公共施設については、当然、図面を見ていただくことは問題ありません。ただ、図面だけでは専門家や担当職員でも分かりにくいことがありますので、こういった形で意見を聞くことが一番現実的なのか考えています。例えば、こういう施設のこの部分に気をつけてくださいというように、日ごろのやりとりの中にヒントはたくさんあると思いますし、身体障害者福祉センターなども、建て替えではなく長寿命化を図っていますが、使いにくいところや動線をこうした方がいいといったことは十分配慮できると思いますので、市側から投げかけもしますが、団体側からもどんどん遠慮なく言ってもらって、良いものにしていけたらと思います。

#### ○団体

ありがとうございます。

2つめは、障害者スポーツのできる場所についてです。

運動公園は、障害者の駐車場を多く確保してもらい助かっていますが、知人から、陸上競技場の裏の障害者用のトイレのドアがすごく重いので自動にできないかと指摘がありました。

また、私は車椅子アーチェリーをやっていますが、東京都や埼玉県には立派な競技場がありますので、船橋も他市に負けないような障害者対応の競技場ができればと思っています。2年後は東京でパラリンピックもありますので、運動公園で障害者が継続的に参加できるような配慮をしていただければと思います。

#### ○市長

トイレのドアの話はありがとうございます。対応させていただきます。

車椅子アーチェリーでは、特に配慮することはありますか。

## ○団体

健常者の方は標的まで70メートルですけれども、私が参加しているのは50メートルで距離以外は同じです。全国大会は他市との交流にもなりますし、最近の若い障害者には、障害者は外に出ないと理解が深まらないと伝えていまずので、成績よりも外に出て参加することに意義があると思っています。

## ○市長

その通りだと思います。

市では今年4月に船橋市パラスポーツ協議会を設立し、市職員にはボッチャ(※)を体験させたりしています。同じく、小学校や中学校にパラスポーツをやっている選手の方たちに来てもらって行う体験会も回数を重ねてきています。子供たちも、テレビでしか見たことのないパラスポーツを実際に見ることで、障害があっても、ここまでできるんだと、選手たちの偉大さもわかります。他にも目隠しして走ったり、目の不自由な方と一緒に走るガイドランナーを体験したりすると、とても共感できるようです。協議会の中でこれから競技などを検討してもらい、パラスポーツを広げたいと思っています。

ただ、船橋はバリアフリーになっていない施設が非常に多く、学校の体育館も折り畳みのスロープが設置されているところがありますが、直さなければいけないところはしっかりと計画を立ててやっていきたいと思っています。

### ※ボッチャ

重度の障害がある方のために考案されたパラリンピックの正式種目。

赤・青それぞれ6球ずつのボールを持ち球にし、白色のジャックボール(目標球)にいかに近づけるかを競う。種目は個人やペア戦などがあり、自力で投げることが困難な方でも補助具を使用したり、ボールを蹴り入れたりすることでプレーができる。

## ○団体

以前、船橋中学校では体育館に入るのに階段が数段あり、車椅子を持ち上げてもらい入りましたが、4、5年くらい前に伺った時にはバリアフリーになっ

ていて、障害者用のトイレもありました。教頭先生にお聞きしたら、障害のある子供がいたので改修したそうです。

時代とともに、我々が住みやすくなっているというのが実感ですね。本当にありがたいです。

#### ○市長

一度に全部は出来ませんが、気がついたところから少しずつやっていきたいと思います。バリアフリーは、障害のある方や高齢者の皆さんのためにもなりますし、子供たちが障害についての理解を深めていくことにも繋がりますので、地道に一步一步取り組んでいきます。また、こんなスポーツ競技も良いというものがあったら言ってもらえればと思います。

#### ○団体

今年度のふなばし健康まつりの会場には、ボッチャの体験コーナーがあると聞きました。ボッチャ自体があまり知られていないので、1年目は参加者が少ないかもしれませんが、毎年同じイベントでやっていただけたら、ちよつとずつでも増えていくと思います。

#### ○市長

学校でも少しずつやり始めると、一気に広まっていくかもしれませんね。市では、8月に職員によるボッチャ体験会を開催しました。簡易な8面コートで100名ほどの参加があり、私、副市長、教育長も一緒にプレーしました。体力はあまり気にしないでいいし、運動神経よりも指先の繊細さなどで十分競えるから楽しいですね。

#### ○団体

娘が県立船橋特別支援学校在籍時にボッチャ部に入部しており、保護者同士の対抗戦をやったことがあります。やっているうちにどんどん熱くなりまして、すごく面白かったです。

○市長

皆で楽しめますよね。障害のある方だけでなく、地域で交流して一緒にできるスポーツというところが良いのでこれからもやっていきたいと思います。

○団体

ありがとうございます。

3つめは災害時用の黄色いバンダナの導入についてです。

聴覚障害者は目も見える、手足も普通に動いて歩くこともできるということで軽い障害と思われがちですが、それは誤解です。

昨年5月の連絡協議会に、障害福祉課が浦安市の黄色いバンダナを見本として持ってきてくれました。そのバンダナの四隅には「目が見えません」や「耳が聞こえません」と書いてありました。ぜひそういった形で作製していただけたらと思っております。

実際に黄色いバンダナについては、障害福祉課ともいろいろご相談して、移動するとき支援が必要な目が見えない方や耳が聞こえない方を、後ろから判断するために、その方たちには必要だということで一致しています。

また、避難所では、黄色いバンダナは障害者全員がつけるというスタンスではなく、情報伝達の面で支援が必要な場合、主に視覚・聴覚障害者を対象に、必要な時に必要な方がつけるということで進めていただけたらと思っております。

○市長

黄色いバンダナは、私も前に拝見したことがあります。

お会いしただけでは聴覚障害者かどうかの判断はできませんし、ただ黙っているだけと思われてしまうなど、いろいろ誤解を受けやすいので、黄色いバンダナを使って周囲に認識してもらうことは、確かにいいなと思いました。

担当から意見が上がってきていますので、予算の関係からすぐには申し上げられませんが、どの位作製するかなど検討したいと思います。

## ○団体

ありがとうございます。

4つめは手話の普及についてです。

市役所では会議等に今回のように手話通訳者（※）を派遣していただきまして大変助かっております。しかし、デパートなど一人で出かける場所では相手に話しても間違っって受け取られてしまったり、何度も聞き返されてしまったり、また筆談でも同様な経験がたくさんあります。書けば良いという問題でもないのです。皆さんにきちんと理解していただくために、もっと深く手話を学んでいただけたらありがたいと思います。

今、各地の市町村で手話言語条例が制定されています。また、全国手話言語市区長会も設立され、市長も会員でいらっしゃると思います。

ぜひ船橋市もいつか手話言語条例を立ち上げていただきたく、お力添えをお願いいたします。これについては、聴覚だけではなく、いろいろな障害を持つ方からお話を聞いておりまして、私たちが運動して皆さんも一緒に取り組んでいただけるように基盤を作っていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

## ※手話通訳者

公益財団法人船橋市福祉サービス公社より派遣された手話通訳者。今回の懇談会では2名の方をお願いしました。

## ○市長

市では手話通訳者の派遣に加え、市民向けに手話の講座も行っていますが、必要な技術を習得するためには非常に時間がかかるので、これは続けてやっていきたいと思えます。

また、学校には手話のサークルや部活などがまだまだ少ないですが、子供たちに手話を知ってもらうことは大事だと思っておりますので、教育長にも話をします。

また、手話言語条例については、平成28年に制定された県の条例にはない船橋独自のものを入れることができれば考えていきたいと思えます。ただ、聴

覚障害の方たちが推進している「手話言語法」(※)の制定が一番と考えていますので、その機運を高めてもらうことも大切かなと思っています。

#### ※手話言語法

手話を日本語と同等の言語と位置付ける法律。

#### ○団体

話は変わりますが、身体障害福祉会の方が車椅子で混雑したバスに乗ろうとしたときに、次のバスに乗ってくれと乗車拒否されたケースがありました。その後バス会社に連絡したところ、次の運転手はとても丁寧に対応してくれて、バス会社からも「次からはこの様なことはないようにします」と言ってくれました。

障害者はこれまで比較的守られていて、昔は入所施設にいたかもしれない方が今は普通に電車に乗って仕事をしている。つまり、今までは見なかったタイプの方たちが社会に存在しますので、最初はトラブルがあるものだと私も思っています。それは差別でも何でもなく、知らないから起きたことです。トラブルに対して、こちらはちゃんと自分たちの声で伝えていく。理解してもらったら、次からは対応してもらえるという経験を積み重ねることで、皆が理解し、障害者が当たり前で暮らしていける町になっていく、船橋もそうやって欲しいと思っています。

防災訓練のことだけではなく、手話のこともスポーツのこともそうですし、障害者だけがどこかで生きていくわけではなくて、皆がいる。障害があってもなくても暮らしていけるいい町であって欲しいと思っています。

#### ○市長

10月に「ふなばしミュージックストリート」を開催しました。例えば、そういったイベントに障害があっても参加できる部分があるかどうかなどを、市にどんどん聞いていただけたらと思います。市職員もどのくらいまで声をかけて良いかわからないと感じているはずですが、特にミュージックストリートのような市民で組織している実行委員会が、ボランティアスタッフの力を借りて開

催しているイベントは、思っている以上にいろいろなジャンルの方が集まります。「特別支援学校で太鼓をやっていたので出演したいのですが」や「このくらいの障害があるけれどボランティアスタッフとして何かやれることはありますか」など聞いていただけると、「どういうことができますか」というやりとりも始まるので、障害福祉課を通して聞いても良いですし、そういった関係がどんどんできるといいと思います。

#### ○団体

先ほどの話ですが、乗車拒否された彼はまだ二十二、三歳です。数日後にまたバスに乗ろうとしたとき、その時は付き添いの方も付いていましたが、またダメかなと思って不安でしようがなかったそうです。そうしたら、先にバスに乗せてくれたそうです。船橋市の対応が良かったからだと非常に喜んでいました。多分、市の障害福祉課に言って、道路計画課からバス会社に連絡をとってくれたのだと思います。やっぱりそういった優しさにふれると、良い方へ良い方へと行くと感じて嬉しかったです。

#### ○市長

ありがとうございます。担当に伝えます。市の職員も、そう言っていただけるとモチベーションが上がります。先日も、テレビでタクシーの乗車拒否の話を送っていましたけれども、誰かが言葉にして伝えてあげることで、これではいけないということが徹底されていくのだと思います。

また、今、ほかの分野の団体では、次の世代の人がなかなか入ってこないという悩みがありますがどうですか。

#### ○団体

それはあります。こういう団体組織に入って活動しているのは、せいぜい私ぐらいの世代までです。次の世代にどうやって伝えていくか、どうやってお互いにやっていくかというのは、どこの市民団体でも今課題になっているのかなと思います。

### ○市長

そうですね。ただ、次の世代の30代、40代ぐらいの若者たちは何もやらないのではなく、やるときにはものすごく結束力があります。行動力もあるし責任感も強い。彼らはおもしろいです。例えば、商店街の跡取りもいれば、梨農家の後継者もいる。海苔などの漁業をやっている方もいれば、普通の会社員もいて、そのメンバーがいろいろな意味で一緒にやるようになりました。ジャンルや年代を超えて知り合うことが大事だと思っているので、自然に繋がっていけるような機会を意識して作っていきたいと思います。

### ○団体

ぜひお願いします。

この間、市長さんもお見えになった夏見地区の福祉まつりに私たちも毎年参加して、子供たちに車椅子体験をしてもらっていますが、そういう体験ができる機会も大切だなと思っています。

### ○市長

本当に大事だと思います。今、世の中では子供たちのネガティブなニュースが多く聞かれますが、見ていると私の子供の頃よりも意識がある子がたくさんいるので、そういった機会をどんどん作ってあげると良いかなと思います。

### ○団体

「手話サークルさざんか」は今年40周年、「船橋市肢体不自由児者父母の会」は再来年で60周年になります。保護者の方たちがゼロからスタートして、試行錯誤しながら働きかけをし、県立の船橋特別支援学校、福祉作業所太陽や福祉ホーム若葉などを造っていただいた経緯がございます。今の世代は、そういう苦勞がわからないというか、既に出てしまっているところに入っているというのがありますが、そういう歴史があるから今のこういう状況があるということを、若い世代の方たちにもよく伝えていかなければと思います。

○市長

本当にいろいろな方に関わっていただいて今日の形ができているので、何かの機会にぜひ伝えていってもらいたいです。

○団体

市立医療センターの建て替えという話を伺っていますが、跡地の活用方法は決まっているのでしょうか。柏にある東葛医療福祉センターの「光陽園」という重症心障害児者施設は、病院だった建物を活用して、子供たちが医療ケアを受けながら楽しく生活する場として造られたそうです。

だんだんと親も高齢化してきており、親がいなくなった後にどうしたらいいのかということが問題になってきています。国の方針は、入所施設は造らないというものですが、市立医療センター跡地の一角にでも短期に預かってくれる、特に冠婚葬祭などで、どうしても利用しなければならないときに利用できる施設を造っていただければと思います。

○市長

施設の必要性は本当に感じています。船橋、市川、浦安は市長の協議会がありますが、そこでも特別支援学校の話も含め、何とかしたいという話もしています。この件は勉強させていただきたいのと、県にも要望を伝えます。

○団体

聴覚障害者も高齢化の問題を抱えております。今、聴覚障害者が安心して暮らすための介護施設が船橋市にないのです。高齢聴覚障害者は香取市まで行っている方もいます。住みなれた船橋市ですと暮らしたいという思いを皆が持っておりますので、聴覚障害者も入れるような施設が一つあればありがたいと思います。

○市長

聴覚障害の方が高齢になって暮らしていく上で一番困ることは何ですか。

## ○団体

引きこもってしまう方が多いです。普通の施設に入っても、聞こえる方とコミュニケーションがとれないので、どうしても一人だけ孤立してしまい、寂しい思いをしていると聞いております。

また、介護の認定を受けるときは、要約筆記者を同行していただくこともありますが、調査の項目は80項目以上あるので、それを全部筆談でやるのはとても時間がかかりますし大変な作業だと思います。その辺りもご理解いただきたいです。

## ○市長

そうですね。私は農家出身で、聴覚障害の方がずっと家に働きにきていました。私は手話ができませんが、子供のころから一緒にいたのでジェスチャーでコミュニケーションがとれました。

このように、地域の方と一緒に過ごす時間があると、高齢になっても関わりが持てるのではないかと思います。これは結構大事なテーマかもしれませんね。何かの機会に自治会長さんに、こういう悩みを持っている方も地域にいることを話してみます。皆さんのバレーボール大会に伺ったことがあります、とても上手だったので、そこに地域の方を呼んでもいいかもしれないですね。

## ○団体

福祉作業所太陽にも学生ボランティアがたくさんいらっしゃるので、そういう交流は大切だなと実感しています。一緒に生活したりイベントに参加することが本当に大事ですね。

## ○市長

市では夏休み期間を利用したボランティア体験会をやっています。市内の子供たちの発案で「ボランティアをやってみたいけどどこが受け入れてくれるかわからない」という声から生まれたものです。まず、生徒・学生とボランティアを受け入れる団体・施設を繋ぐために「マッチング会」を開催します。毎年200人以上が参加していますが、今年は2カ所、中央公民館と高根台公民館

で開催したところ、参加者が300人を超えました。希望者が多数のため抽選となる団体・施設もあるほどです。福祉の介護施設や、福祉作業所太陽など、いろいろなところに行ってもらいました。アンケートをとると、皆がまたやってみたいと言うので、今の子供たちは本当にすごいなと思います。

#### ○団体

私は年に1度、ふなばし市民大学校ボランティア学科で障害者のお話をさせてもらっています。そこで嬉しいのは、運動公園でボランティアさんが見えたときに、こちらがお名前を知らない方も声をかけてくださいました。これは本当に嬉しいことです。何でも出会うきっかけになるので、障害者はどんどん外に出たほうがいいなと思いました。

#### ○市長

そうですね。いろいろな方がお互いに挨拶ができる町が一番良いと思います。今日はありがとうございました。

— 了 —